

# 滋賀県の地震

令和8年(2026年)3月

## 目次

### 1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

### 2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	5
(2)概況	-----	5

### 3 地震一口メモ

「令和6年能登半島地震」の震度1以上を観測した地震の回数の 精査結果について	-----	6
---	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

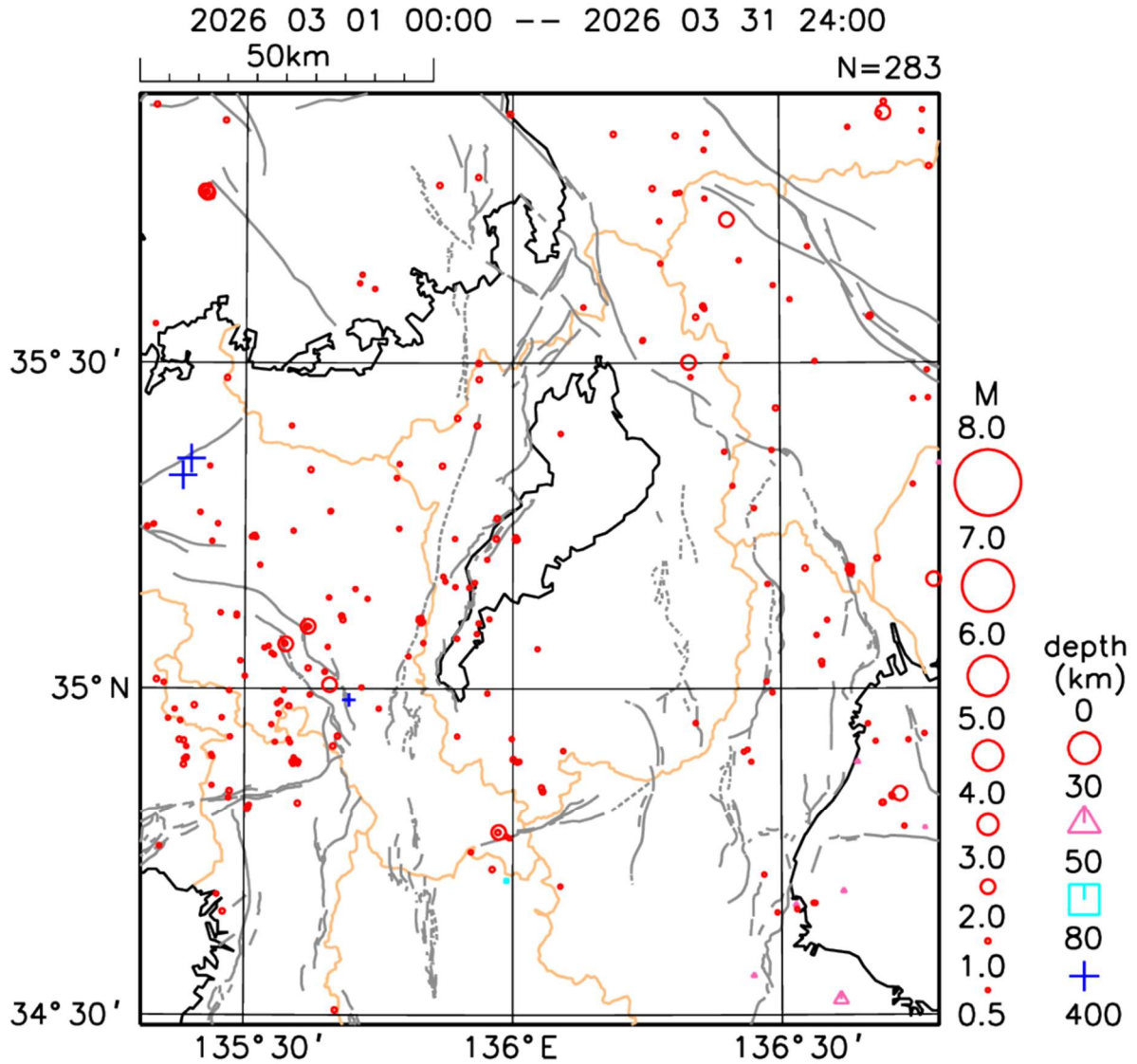
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

# 1 滋賀県の地震活動(令和8年3月)

## (1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。  
 シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模（マグニチュード）」、形状により「震源の深さ（km）」を表現しています。マグニチュード（M）とシンボルマークの大小、震源の深さ（depth）とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。  
 図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度（実線部＞破線部）を表しています。  
 滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています（最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません）。  
 震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

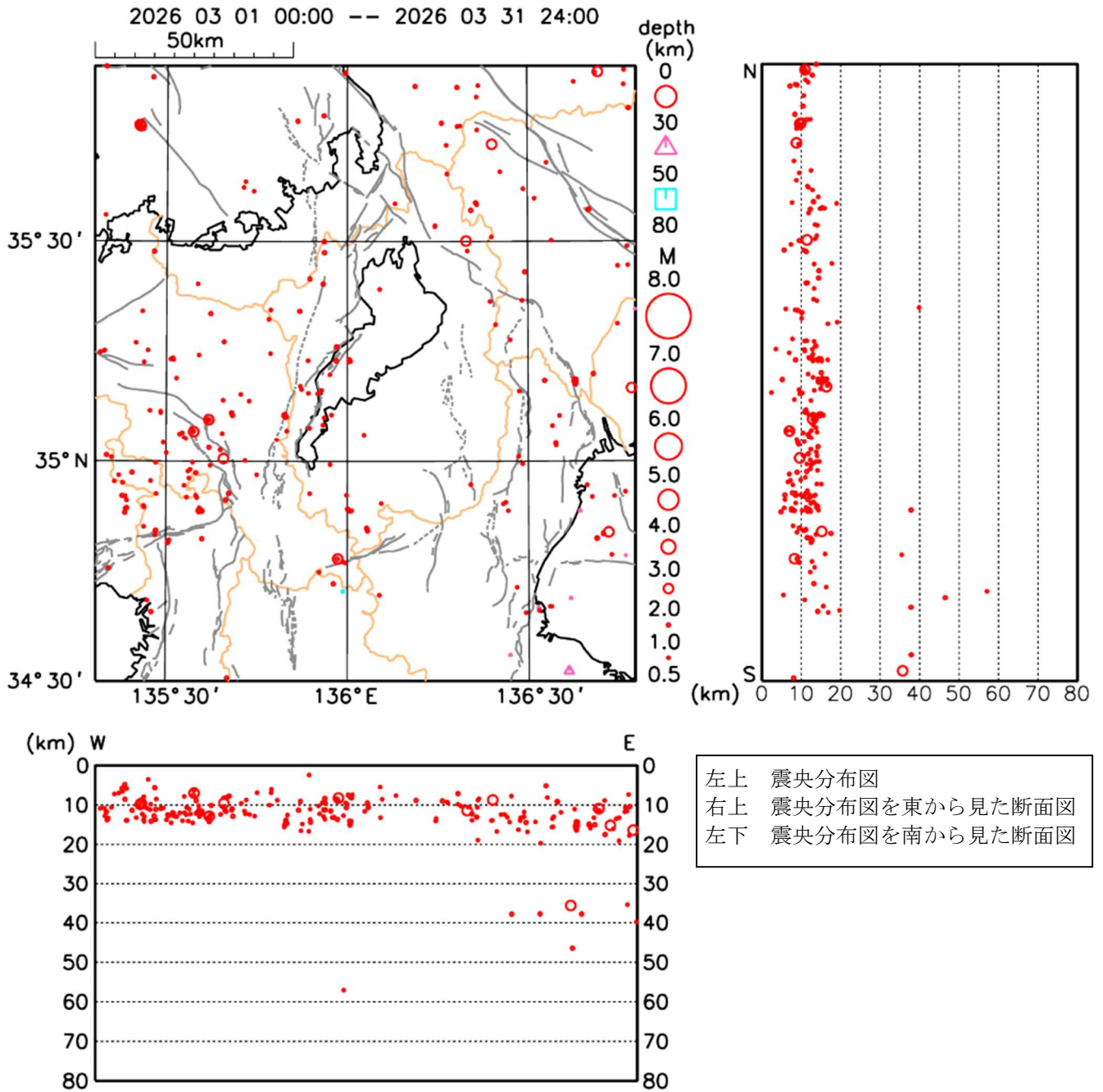
## (2) 概況

3月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は15回（前月9回）でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回でした（前月0回）。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

25日20時31分 兵庫県南東部（図の範囲外）の地震（M4.2）：長浜市、大津市、湖南市、甲賀市、東近江市、竜王町で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

#### (4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
------	------	----	----	----	---------

各地の震度（滋賀県内のみ掲載）

---

2026年03月25日20時31分 兵庫県南東部 34°54.1' N 134°57.5' E 18km M4.2

----- 地点震度 -----

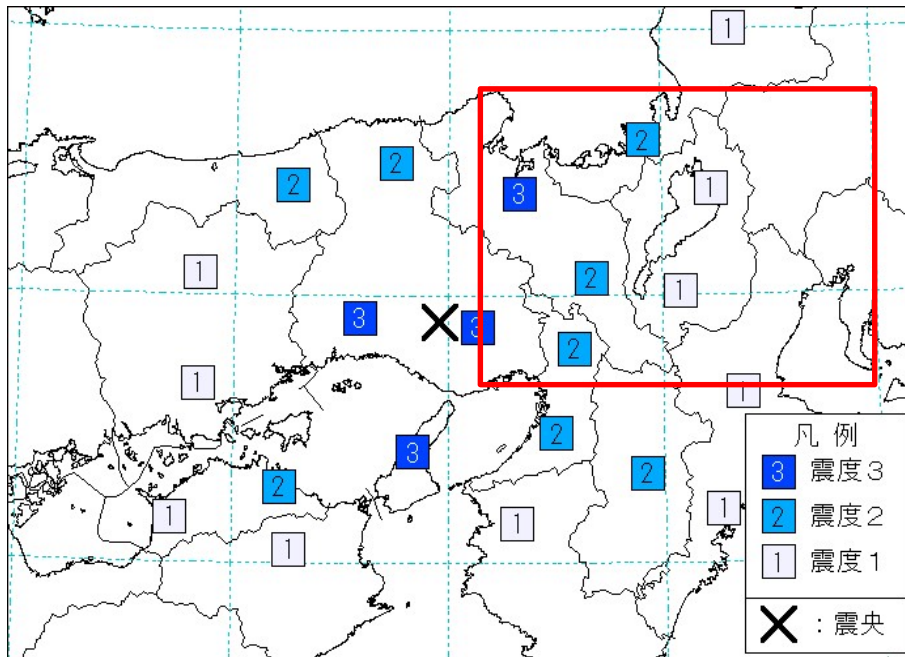
滋賀県 震度 1： **長浜市西浅井町大浦\***, **大津市南小松**, 大津市国分\*, 大津市南郷\*, 竜王町小口\*  
湖南市中央森北公園\*, 湖南市石部中央西庁舎\*, 湖南市中央東庁舎\*, **甲賀市水口町**  
甲賀市信楽町\*, 東近江市上二俣町\*

---

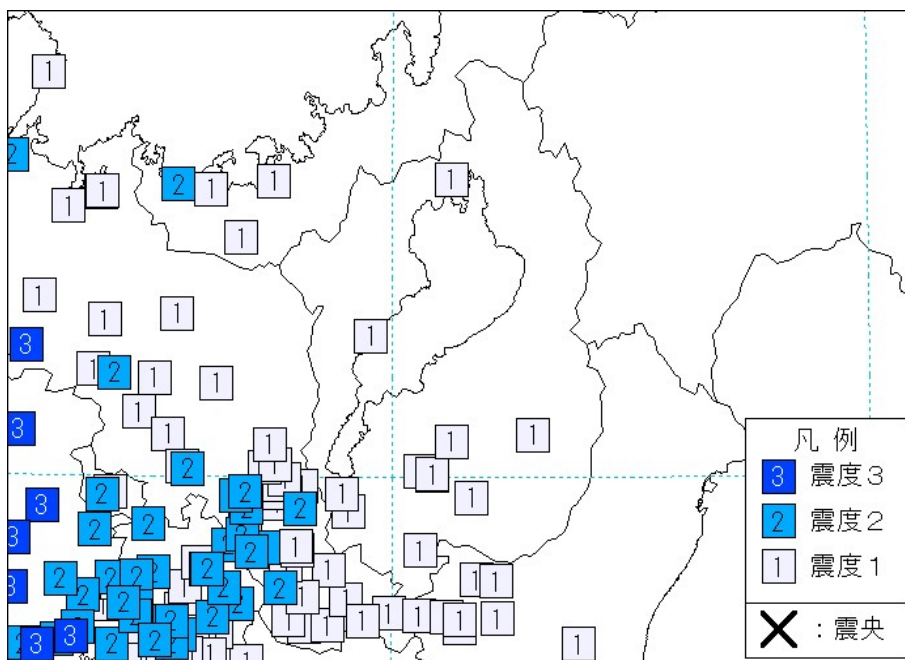
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に\*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

2026年3月25日20時31分 兵庫県南東部 (M4.2)



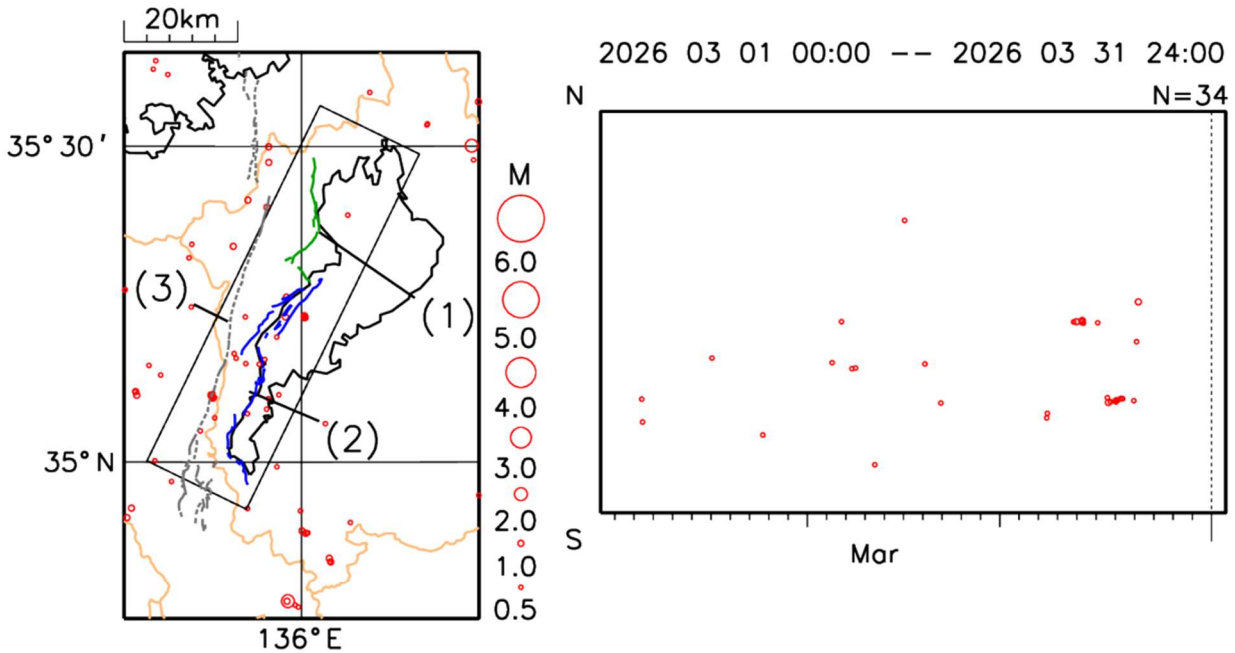
各地域の震度



各観測点の震度 (各地域の震度の赤矩形領域内)

## 2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和8年3月)

### (1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ30kmまでの地震)



#### (上) 震央分布図

深さ30km以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

#### (右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

#### (右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

**琵琶湖西岸断層帯について**

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約59kmで、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が1つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部ではM7.1程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率は1~3%と推定されます。

断層帯南部ではM7.5程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ0%と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は2026年1月1日。)

## (2) 概況

3月に震央分布図中の矩形領域内で観測されたM2.0以上の地震は0回(前月1回)で、同領域内の地震で震度1以上の揺れは観測されませんでした。

### 3 地震一口メモ

## 「令和6年能登半島地震」の震度1以上を観測した地震の回数の精査結果について

気象庁では、国内で震度1以上を観測した地震の震源・マグニチュード（以下、震源要素）とその観測した震度を即時に地震情報として発表していますが、短時間に非常に多くの地震が発生した時には即時にすべての地震の情報発表を行うことができないため、改めて地震回数や震源等を精査することとしています。「令和6年能登半島地震」では2024年1月1日16時から2月8日にかけてはM7.6の地震や広い範囲で地震活動が活発になったこともあり、地震回数が未確定となっていました。この度、精査作業が完了し震度1以上の地震回数が確定しました。

これによると期間中の震度1以上を観測した回数は323回増加し、うち震度5弱が2回、震度4が4回増えるなどしました。

#### 令和6年能登半島地震の地震回数

(令和6年1月1日16:00～2月8日24:00)

	震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7	回数計
精査前	974	407	164	46	7	8	2	0	1	1609
精査後	1193	491	178	50	9	8	2	0	1	1932
増減	219	84	14	4	2	0	0	0	0	323

なお、この期間中に能登半島周辺の地震により滋賀県内で震度1以上を観測した回数は16回と精査前後で変わっていないのですが、1月1日16時12分のM5.9の地震で県内震度2が新たに追加された一方、1月1日16時18分のM4.0の地震による県内震度1が削除されました。1月1日16時18分のM4.0の地震の震度の削除は、この地震とほぼ同時刻に発生したM6.1の地震（県内震度2）による震度と区別することが出来ないと判断してまとめたことによるためです。また、前述のM4.0の地震はこのまとめた震度の震源のひとつとして含まれますが、精査の結果、地震の規模が変更されM3.7に更新されました。

#### 同期間中に滋賀県内で震度を観測した回数

	震度1	震度2	震度3	震度4	回数計
精査前	10	5	0	1	16
精査後	9	6	0	1	16
増減	-1	1	0	0	0

精査後の震度情報は気象庁HP内「震度データベース検索」から確認できます。

この様な対応は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」や「平成28年（2016年）熊本地震」でも行われており、精査が完了した段階でその結果を公表しています。

気象庁HP「令和6年能登半島地震」の震度1以上を観測した地震の回数の精査結果について

[https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/09c/20260309\\_noto\\_shindo\\_seisa.html](https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/09c/20260309_noto_shindo_seisa.html)

気象庁HP 震度データベース検索

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

気象庁HP 震源リスト

[https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/daily\\_map/index.html](https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/daily_map/index.html)